

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172700284		
法人名	特定非営利活動法人まめなかな		
事業所名	グループホームまめなかな		
所在地	岐阜県高山市赤保木町969-1		
自己評価作成日	令和3年9月15日	評価結果市町村受理日	令和3年12月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouCd=2172700284-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ゑふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症状や身体症状が年を重ねる事に重度化しています。平均年齢も90歳以上になります。利用者様の残された機能を生かせるよう、介護、接し方等、職員間で共有、工夫しながら日々、支援させて頂いております。体調の変化、異変時には提携医に相談、早期に対応しています。又、看取りにも取り組んでおります。ホームの周りは自然に囲まれており、四季の移り変わり等、二階の窓から感じる事ができます。ここは自分の家という感覚で、居心地よく穏やかに暮らして頂けるよう見守り、支援して行きたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人は、平成28年度から始まった「岐阜県介護人材育成事業者」として認定を受けている。利用者は、高齢化と共に、出来る事が限られてきているが、法人理念「たとえ年をとって認知症や体が不自由になっても、地域の中で生き生きと暮らしていけるよう、安全・安心・質の高いサービスを目指しています」を掲げ、全職員で情報を共有しながら支援に取り組んでいる。同法人の他事業所や医療機関と連携をしながら研修を積み重ね、看取り体制も整えている。管理者は、職員の資格取得を奨励してそれぞれのスキルアップを図り、より良い利用者サービスにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く所に提示し、残された機能を発揮して頂けるよう、利用者様の能力に合わせて介助を行っています。	理念を目に付き易い場所に掲示し、職員は常に意識して支援を行うよう心掛けている。利用者一人ひとりの状態に合わせた支援を行い、日々、振り返りながら、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は新型コロナウイルスの影響により、行事関係を行う事ができていない。感染予防の為、外部との接触を、なるべく控えている。	自治会に加入し、地域の行事は回覧板で把握している。地域の祭りでは、神輿が立ち寄ったり、事業所の夏祭りや感謝祭には、家族や近隣住民が参加するなど、大イベントであったが、コロナ禍の今、外部との交流を自粛している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症になっても穏やかに過ごす事ができる。行事や交流の場等で理解して頂いていたが、今年度はできていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は3回まで中止している。今後は状況を見ながら検討していきます。ご家族様、町内会長様、民生委員様には、アンケートで意見を頂いています。	感染予防対策の為、運営推進会議は書面開催とし、文書を送付している。会議メンバーや家族に、行事や今後の活動予定を報告し、意見や要望を受け、それらを行政にも報告している。	現在、運営推進会議は書面での開催である。報告書は、通常開催時よりも関係者や家族に分かりやすい議事録を工夫し、今後も更に、会議の目的に沿って、意見をサービス向上に活かせるよう期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険者(高山市主催)の会議や交流会、イベント等に最低限は参加しています。担当者とは、相談できる関係性が築けています。	書面開催での運営推進会議において、意見交換をしている。市町村の会議等には、できる限り参加している。介護保険制度の最新情報や、ワクチン接種について相談しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などについて、ミーティングの中で学習会を開催し、全員が理解している。身体拘束をしない介護に取り組んでいる。説得より納得していただけるよう話かけている。	身体拘束適正化委員会を3ヶ月毎に開催している。ミーティングの際にも、様々なテーマで勉強会を行い、拘束の弊害についても学んでいる。また、虐待も含めて具体的な課題を挙げながら話し合い、利用者の心と行動を制限することのないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや勉強会等で、虐待防止について学んでいる。スタッフは常に虐待防止に努めている。		

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度について学ぶ機会を持ちます。必要時には活用できるよう取り組みます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、丁寧に説明を行い同意を得ています。改定などの際にも説明を行い同意を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の方には電話を頂いた時や、手紙等で意見を頂き、運営に反映できるよう取り組んでいます。	通信を送る際に、担当職員が個別に手紙を書き、写真入りで送付している。利用者の日々の暮らしぶりや食事状況等を詳しく書いて報告している。送付後には、電話でも意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング時や申し送り時、又は個別にスタッフの意見を聞き入れ、介護業務及び施設運営に反映されるようにしている。	管理者は、職員それぞれが、得意な分野を発揮できるよう、日頃から要望や提案を聞いている。日々、利用者ケアに取り組みながら、資格を取得した職員も多く、働きやすい職場環境も職員全体で作り上げている。	職員は、常にプロとして、利用者支援に取り組んでいる。現在、更に職員全体がもう一段階、スキルアップ出来るよう研修内容を検討中である。更なる介護の質の向上を目指し、実現されることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤続5年以上の方には、主任制度を設ける。勤続年数での表彰の機会を設けている。資格をとりやすい環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば可能な限り、参加できるようにしている。2年以上の方には、認知症介護実践者研修やリーダー研修などを受けて頂くようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はできていません。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と会話をしながら、要望や意見を伺い、安心して頂けるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、悩み等話を伺いながら、より良い信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、ケアマネージャーと話し合い、必要としているサービスを見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のように接しています。コミュニケーションを図り、本人様ができる事を一緒に行いながら、信頼関係を深めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様には、細かな状態を報告している。情報交換をしながら、お互いに支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会等の制限があり、連絡は電話で対応している。	感染予防対策の為、馴染みの場所への外出や、家族や知人との面会も自粛している。感染対策をした上で、人の少ない場所へのドライブは実施している。また、利用者を孤独にさせないように、地元在住の職員が、地域の話が話題にして声かけしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状の影響で、コミュニケーションが上手く図れない利用者様もみえます。孤独にならないよう職員が利用者様の間に入り、コミュニケーションが図れるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所、病院と連帯し、その方が必要とされるケアができるよう、相談や支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握し、利用者様が生きがいを持って過ごす事ができるよう支援している。困難な場合は表情等で思いを把握している。	職員は、利用者が安心して話せるよう、雰囲気作りを心掛けている。入居期間が長い利用者の場合は、意思表示は難しくとも、何を求めているかを把握できることも多くあり、希望に沿うよう情報を共有し支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方など、本人様、ご家族様、知人の方に話をお聞きし、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康状態の観察を行い、個別に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや月1回のミーティング等で、利用者様の小さな変化でも意見を出し合い、話し合いを行っている。ご家族様の意見や、希望も反映できるように介護計画を作成している。	家族には、手紙や電話等で、介護計画についての希望を聞いている。以前は、家族の訪問時に時間をかけて話し合うことができたが、コロナ禍の今は、担当職員が中心となって、職員及び関係者で話し合い、現状に即した計画作りを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に毎日の様子など、介護記録に記しています。職員間で情報を共有、実践できるように申し送り、介護計画の見直しにいかしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの他、有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護を持ち、利用者様の要望に応じてサービスが選択できるように体制を整えている。		

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全に配慮し、できるだけご本人ができる事をやって頂き、生きがいを持てるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医師の往診があり、体調の変化の把握をし、適切な医療を安心して受けられるよう支援している。	契約時に、かかりつけ医について説明し、利用者と家族が選択をしている。職員として看護師の配置があり、連携しながら、利用者の健康管理に努めている。従前のかかりつけ医への受診は、家族同行を基本としている。緊急時には、看護師や医師の指示のもと、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師と訪問看護ステーションと連携しています。緊急時に対して適切な受診や、看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	職員の病院への訪問や、病院関係者との情報交換等、関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針は、ご家族様に希望を聞いている。状態の変化をご家族に報告し、提携医、ご家族、職員間で話し合い、方針を共有し対処している。看取りを行っている。	入居時に、重度化や終末期の対応について説明し、本人・家族の同意を得ている。状態に変化があった場合は、早い段階で関係者が話し合い、方針を決定し共有している。家族には、看取り指針についても説明し、協力を得ながら看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に対応できるように、講習会等を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は定期的に行っています。火災や地震、水害時等の避難、誘導訓練を行っている。法人全体での訓練も行っている。	年2回、夜間想定を含めた災害訓練を行い、利用者の避難誘導を行っている。地震や水害対策についても定期的に話し合っている。緊急時に持ち出す避難用品は個別に用意しており、ホームで保管し、備蓄品の完備、定期点検も行っている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけの重要性、傾聴する姿勢の大切さを、日頃から話し合いを行い、方言でコミュニケーションを図っている。	常に、利用者一人ひとりに目配りし、言葉に耳を傾けてケアを行っている。排泄や入浴時の支援の際にも、周囲を確認して、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけ、自己決定や選択がしやすい声かけを工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定、自己選択ができるように日頃から信頼関係を築き、声掛けの仕方など工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のケアや生活援助が、職員の都合を優先する事なく、利用者様の希望や状況に合わせた支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択ができなくなっている中、自分が好きな服を選んで着られるよう見守りながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は職員が間に入り、会話をしながら楽しい雰囲気の中で食事をして頂いている。食事の準備や片付けは、一緒に行う事が難しくなっている。	配食サービスも利用しながら、専門の調理担当者が、旬の食材をとり入れながら、手作りしている。個々の状態に合わせた形態で提供し、会話を楽しみながら食している。毎日のおやつも、事業所で手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の食事量を確認し記入している。摂取量が少ない時などは、捕食や栄養剤などで補っている。水分摂取は食事やおやつ以外にも、細目に提供するよう心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは、毎食後に声かけし行っています。利用者様毎に対応し、口腔内の清潔を保つようにしている。		

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の習慣、行動パターンを把握し定期的なトイレ誘導を行っている。トイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄が習慣になるよう、声掛けと誘導で支援している。2人介助が必要な利用者もあるが、昼間は、できる限りトイレで排泄できるよう支援し、本人負担の費用軽減につながるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便管理を行っている。慢性の便秘症の方には、医師の診断の下、下剤を服用して頂いている。水分を多くとる、運動を行うなどし予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けています。入浴前に利用者様の体調等を確認し、利用者様のペースで入浴して頂くよう支援している。	入浴は週2回を基本としているが、利用者の希望を聞きながら、柔軟に対応している。足浴、シャワー浴でも支援し、重度の利用者には、複数で介助を行い安全に入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて休んで頂いたり、夜間不安になられる利用者様には、安心して頂くような声かけなどを行い支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、薬の副作用、追加等も、その都度共有、把握をしている。変化がないか確認、観察し、服薬確認は必ず行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活歴など把握し、出来る事や興味のある事を、体調に配慮しながら行っている。内容を工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は控えて頂いている。現状、散歩等、出かける事ができる利用者様が、限られている。	感染予防対策の為、以前のような外出支援は自粛しているが、家族と共に往診の帰りなどに、馴染みの場所に立ち寄っている。感染対策をした上で、車でドライブなど、気分転換を図っている。年間行事も計画しているが、現在は実施が難しい。	

岐阜県 グループホームまめなかな

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が欲しい物がある時は、ご家族様にお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者様には、電話をして頂いている。手紙を書く利用者様はみえないが、希望に沿い支援していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	敷地内の庭には、花や畑などがあり、自然豊かな環境です。 共用空間は常に清潔を保ち、転倒等危険がないように手すり等の設置の他、常時障害物の有無を確認し、安全な環境を整備している。季節にあった貼り絵など利用者様と一緒に作り、飾っています。	感染予防対策のため、今年度も入室を控え、別室にて写真等の確認となった。リビングには利用者と職員が共に作り上げた作品を掲示している。季節の花を飾り、窓からも四季の移り変わりを眺めることができる。冬は自宅にいる時と同じように、畳スペースのこたつで寛ぐことができ、家庭的な雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様各自、落ち着く場所があり、楽しく話せる利用者様が一緒に座ってみえます。安心して暮らせるよう、調整や環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から馴染みの物や、大切にしていた物を持ってきて頂き、使用して頂いています。ぬり絵等の作品や、写真を飾ったり、自分の部屋である事を認識できるよう、居心地よく過ごして頂けるよう工夫しています。	居室の入り口には、自分の部屋がひと目で分かるように配慮してある。居室には、ベッドや整理タンスが設置されている。使い慣れた日用品を持ち込み、写真や趣味を生かした作品などを掲示し、居心地良く暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとり出来る事、できない事がある中で、職員が理解し、共有し安全かつ、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		